

今回は、「よくある社員の間違い行動」という小冊子からです。

気づいても周囲に注意できない

「〇〇さん、〇〇なことをしていたんですよ。私、良くないと思うんです。」「〇〇さん、〇〇なこと言っていたんですよ。チームに悪い影響を及ぼすと思うんですけど・・・」職場を良くしようという気持ちから、そういった報告をしてくれる部下は、上司にとってありがたい存在だ。

しかし、中にはこんな人もいます。上司が「そうなんだ。それはまずいよね。それで〇〇さんどうしたの？」それを聞くと、本人は「え?・・・」気づいて報告をしてくれるのだが、自分では周囲に注意をしていないのである。

こういった人は「職場を良くするのは上司の仕事です。私は気づいたことを報告するという協力はしますが、周囲に注意するといういやな役回りは上司がするのが当然です！」そう思っていないだろうが、そう思われても仕方がない行動をしていることになる。もし、その上司が、さらに上の上司に同じように「〇〇さん、〇〇なこと言っていたんですよ。私、良くないと思うんです。」と言ったらどうなるだろうか？どんどん上に上に、問題が投げられていって、すべて細かいことをトップが言わなくてはならなくなる。職場を良くするのは、一般社員から管理者、トップとみんなの仕事なのである。

時々、「私たちの職場は和気あいあいとしています。」という人に出会うことがある。そういった人に出会うと、私は、本当にそうなのか？今流に言えば、偽装和気あいあいなのか？良く考えてほしいなあ？と思う。和気あいあいの職場であると言いながら、中の良いグループで飲みに行くと、次々に他の人の批判が出てくる。職場で悪いことを悪いと注意しないから、和気あいあいが保たれているに過ぎない。これが、偽装和気あいあいの職場だ。仲良しクラブとも言えよう。本当の和気あいあいとは、「悪いことは悪いと注意しあっても保たれる和」を言うのである。

会社は、お客様に喜んでいただければじめて経営が成り立ち、1人1人も生活に必要な給与がもらえる。ならば、お客様に喜んでもらえる価値を提供する目的に合わない行動に気づいたら、たとえ一般社員でも注意しなければならないのである。

「自分は見つけて批判する人、注意をして嫌な思いをするのは他の人」そんな人がたくさんいる会社は、どんどんだらしなくなっていく。気づいた人、一人ひとりの勇気ある小さなひと言が、会社をキリッとしたものにしていくことを忘れてはならない。

カッコ内を埋めてください。

(「」)という人に出会うことがある。そういった人に出会うと、私は、

本当にそうなのか？今流に言えば、()なのか？良く考えてほしいなあ？と思う。

本当の和気あいあいとはなんと言っていますか？

()

どんな人がたくさんいるとその会社はだらしなくなりますか？

()

一人ひとりの勇気あるひと言は会社がどうなると言っていますか？

()